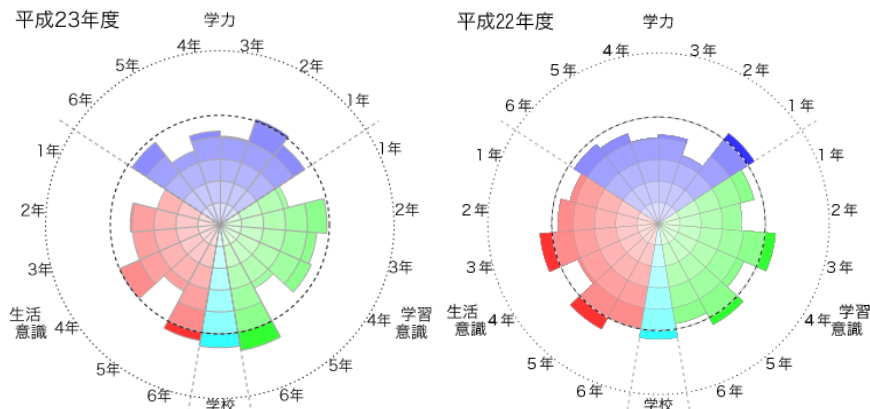


1 学力調査等からの実態把握

(1) 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



ア チャートの傾向
児童の学力は、国語・算数ともに二極分化しており、下位群と上位群との差が大きい。

イ 学校質問紙
教科指導については、児童の考えを引き出すなど各教科で工夫して指導している。
また、家庭学習についても、学習習慣の定着を図るための取組として実施してきている。

ウ 児童質問紙調査

- ・挨拶や人への思いやり等の豊かな心の育ちは、学年によってばらつきが見られる。また、将来の夢や目標をもっている児童も多くいるが、自尊感情は、学年があがるにつれ安定化する傾向が見られる。
- ・国語の勉強が好きだと答えた児童は全市に比べやや多いが、算数については、全市に比べて少ない。算数の教科の特質である問題解決的な学習をさらに充実することが必要。
- ・1日の運動をしている時間及び1日の勉強時間は、2年生・3年生（現3・4年生）で全市よりも長い。

(2) 教科学力及び経年分析

- 児童の学力は、二極化もしくは、学力層Dの児童の割合が多い傾向が見られる。
- 教科の学力について、学年があがるにつれて「学力層D」の相対的な割合が減ってくる傾向にある。

(3) 学校の状況・地域の実態

- 入学時から学年があがるにつれ、学力・社会力ともに安定してくる傾向にある。
- 授業中に一定時間座っていることができず、学習への集中度に欠ける児童もいる。まずは、聞く姿勢を身につけさせることを大切にすることが必要。
- 学校生活への満足度は高く、地域や社会に対する関心も高い。
- 配慮を要する児童への対応が比較的適切にできている。より一層の児童理解が今後の課題。
- 地域と学校との連携を一層密にしていくことが必要。
- 教員は授業改善に向けて意欲をもって取り組んでおり、組織的な取組みを行っている。
- 経験の浅い教員について、一層基礎的な指導技術を身に付ける必要がある。

2 今後の方向

(1) 最優先課題

- ア 学力の幅のある状況において安定した授業のできる授業力の向上（習得を核としながら活用する力の育成）
- イ 特別な教育的支援が必要な児童がいる学級に対する授業力、指導力の向上
- ウ 時間割や会議等の精選による研究・研修時間の確保
- エ 体験的学習場面を増やすため、保護者、地域が学習指導場面に参画することの推進

(2) 学力向上重点目標「中期学校経営方針」（平成22年度～平成24年度）

- ア 基礎的・基本的内容を明確にし、指導内容の重点化を図る
- イ 指導力・授業力の向上をめざす
- ウ 一人ひとりの児童のニーズや実態に合った、楽しく分りやすい学習を工夫する
- エ 学校と家庭との連携により家庭学習の習慣化を図る

3 平成24年度 具体的方策

意欲的に学習に取り組む子の育成（平成24年度目標）

（1）教員一人ひとりの授業力向上への取組み

ア 問題解決型学習の具現化

- **ノート指導、話し合い活動などの言語活動の充実**
 - ・自分の思考について、その根拠を書いたり、発表したりすることができるようにする指導の充実。
 - ・「言語活動サポートブック」の中の事例を全学年、全教科等で実施。
 - ・言語活動の充実に向け意図的に行うことが必要。
- **研究・研修の充実**
 - ・年間一人2回以上の「模擬授業」または「研究授業」を実施。
 - ・全教師の「発問、指示」「板書」「確認」の徹底。
 - ・自分の課題に沿ってテーマを決めた模擬授業の実施。
 - ・国語科を重点に研究授業の実施。読解力の向上をめざした授業提案。

イ 個に応じた指導の充実

- **補充・基礎・発展的指導内容**
「横浜版学習指導要領」の「補充的・基礎的・発展的指導内容」の活用による学力向上。
- **特別支援教育の充実**
発達障害等のある児童への授業における指導・支援の研修や理論研修を実施。

（2）学校組織としての取組み

ア 学習に向かう姿勢づくり

- **学習の基盤となる躰、学習規律の形成**
全児童の、挨拶、返事、靴を揃える、体育着をたたむなどの基本的な行動についての徹底。
話を聞く姿勢、物を持たないで相手の顔を見て聞くことの徹底。
清掃活動など、全教職員が率先して児童の範となる活動を実施。
- **児童と教師とのふれあいの確保**
児童と教師とのふれあいを大切にするため、例えば一日合計40分以上の休み時間の確保。

イ 研究・研修体制の構築

- **学校全体がメンターチームとして相互に研修を行える体制の構築**
日常の中で自己の体験（経験）を話すことや、インフォーマルな研修などを通して、授業力の向上。
- **研究・研修時間の確保**
会議の統合や廃止、時間割の工夫等による研究・研修時間を週に2時間以上確保。
- **学年会の充実**
学年会において、模擬授業などを通じた授業力向上のための研修時間の確保。

ウ 学校と家庭・地域の連携

- **家庭学習の習慣化**
家庭と連携し、各学年で決めた時間の家庭学習を行うための学習計画づくりの一層の充実。
- **学校評価の充実**
授業参観・懇談会、行事等の様々な場面で保護者の思いを受け止め、共通理解をもつよう努める。

エ 学力向上アクションプランの検証と授業評価・学校評価

- 横浜市学力・学習状況調査の結果を分析し、日常の授業に生かす
- まちとともに歩む学校懇話会